

# 令和3年度 第3回 藤沢市介護保険運営協議会

## 議題(1) 令和3年度 藤沢市介護保険事業の実施状況【資料1】

項目	質問等	質問者	担当	回答
1	介護予防教室や講座に参加したいとの声を地域で聞きますが、情報の周知はどのようにされていますか。	板原委員	高齢者支援課	介護予防事業については、広報ふじさわや市民センター、公民館、地域包括支援センター等でのチラシによる周知を行っています。しかしながら新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、会場利用可能人数の制限などにより、新規の受入れが困難な状況があるものについては積極的な周知を控えている状況です。
2	①コロナ禍において、訪問介護等の居宅介護サービスの利用率が低下していると思われます。それについて、居宅サービスを提供している事業所の経営になんらかの影響はありますか。 ②また、サービスの利用低下が、利用者の方々になんらかの影響はありますか。教えてください。 ③コロナ禍において、介護保険施設では、感染症対策の徹底化等の様々なご苦労があると思われます。どんな事柄が大変なのが、具体的な対応について、教えてください。	横倉委員	介護保険課	①コロナ禍にあっても介護サービスの継続が求められ、衛生用品の配布、基準緩和や代替サービスの提供措置等が行われているため、コロナウイルス感染症による経営上の影響は小さいものになっていると考えています。 ②利用控えによる影響については、ADLの低下等が挙げられており、課題と受け止めていますが、通所系サービスをほぼ毎日利用していた利用者が訪問サービスに切り替える対応により、在宅での生活を成立させている、という報告もありました。 ③感染者が発生した場合のゾーニングや認知症の方の対応等についての不安が事業者から聞かれます。保険者としても、県と連携を図りながら、感染症対策の研修を行うなど事業者支援に努めているところです。
3	35頁の7その他の地域支援事業(1)包括的支援事業、地域ケア会議、事例検討を行っているようですが、特徴的な問題や課題があれば、教えてください。	横倉委員	高齢者支援課	単身高齢者が、介護保険サービスの利用を開始したことにより、地域の見守りや声掛け等の機会が減ったという事例がありました。衣食住の確保にかかる生活支援は必要ですが、住民同士のつながりとのバランスが課題となりました。
4	コロナ禍で通所介護などの利用控えがあるとの記述について、利用控えによって、運営状況も悪化していることが考えられます。補助金などでフォローしている状況でしょうか？	猪狩委員	介護保険課	介護サービス事業所・施設等における対策として、感染症が蔓延していく過程で、衛生用品の配布やサービス継続のための補助事業など、様々な支援策が展開されている状況にあります。
5	P35 7. その他の地域支援事業(2)任意事業の認知症サポーター養成講座を受講したサポーターのその後の活動はどのようなものがあるのか。	田中委員	高齢者支援課	認知症サポーターは、講座の学びを生かして認知症について気軽に話したり、街の中で困っている人がいれば声をかけたり手助けができるような気運の醸成を図る役割があります。また積極的な取組を希望される方には、上級講座の受講や認知症の普及啓発、認知症の方が安心して集える場づくり等の活動にご参加いただいております。

6	P38 事故報告の状況で、事故の種類別件数の「10誤薬、落薬、与薬漏れ」はいつもかなりの件数があるが、職員によるものが多いのか、本人によるものが多いのか。	田中委員	介護保険課	誤薬・落薬・与薬漏れの事故については、約8割が職員介助中の事故となっています。誤薬・落薬・与薬漏れの割合はほぼ同率ですが、誤薬については、他の利用者の薬と間違えて服用させたケースや、服用するタイミングを誤ったというケースがあります。
7	(P1 1被保険者の状況)介護保険事業の基本数字の後期高齢者数のR3年度計画値に対して、実績がかなり下回っています。H28からR2迄のの次年度との差は、2580人、2306人、2214人、1383人であり、R3計画値とR2実績の差は、3684人です。重要な計画数値の算出基準はどの様されていますか。	清水委員	介護保険課	計画値は、平成27年国勢調査に基づく平成29年度藤沢市将来人口推計をもととして算出している数値になります。
ご意見	6, 介護予防・日常生活支援総合事業の利用状況においては新型コロナウイルスの影響で、事業開催が減少あるいは中止されている事は仕方の無いことだと思いますが、介護予防は大切な事業だと思います。短期集中予防サービスの様に居宅でのサービス等、利用者のニーズに合わせた支援の仕方を考え、コロナ禍でも安心して利用しやすい事業を行なって欲しいと思います。	後藤委員	高齢者支援課	

議題(2) 令和3年度地域包括支援センター事業報告について【資料2】

項目	質問等	質問者	担当	回答
8	包括的支援事業の相談のべ件数において、善行地区が新規及び継続共に多いのは高齢者人口が多いことが原因と思いますが、継続件数が他に比べて多い理由がありましたら教えてください。藤沢東部地区は相談実人数が突出していますが、これに関しても理由があれば教えてください。	後藤委員	高齢者支援課	善行地区の継続件数が多い理由につきましては、相談内容としまして精神疾患に関することや生活困窮に関する相談が多く、ご本人、ご家族、民生委員をはじめ、関係者の方からの相談から複数回あり、電話や面接、訪問を繰り返しながら支援していることが主な要因となっております。 藤沢東部地区につきましては、現在、相談件数全般につきまして、再確認させていただいておりますので、確認がとれ次第、報告させていただきます。
9	活動報告を見てみると、善行と湘南大庭を比較して、善行の相談述べ件数が多いのは、なぜなのか、教えてください。	横倉委員	高齢者支援課	善行地区につきましては、2つの団地を抱え、住民の高齢化と併せて世帯の問題として、8050といったご家族の支援も増えています。様々なご家族の精神疾患や生活困窮等といった複合的な問題につきましては、地域包括支援センターだけでは解決が難しく、バックアップふじさわやコミュニティソーシャルワーカー等との連携も必要であり、延べ件数が増加している原因となっております。
10	介護保険に関する相談が多いとのことですが、在宅生活か、施設入居どちらのニーズが大きいですか？	猪狩委員	高齢者支援課	地域包括支援センターでは、在宅生活で利用する介護保険サービスに関する相談が多い状況があります。
11	初歩的な質問ですが、コロナ禍は、R2年度から始まっています。R2の実績経過からR3の介護予防給付管理件数の急増は、予測が難しかったのでしょうか。また、配置職員数は、R2より微減している中での対応策はどのように行っているのでしょうか。	清水委員	高齢者支援課	いきいきサポートセンターの職員配置につきましては、前年度の4月1日の高齢者人口を基準として配置されております。いきいきサポートセンターでは、相談支援業務以外にも介護予防ケアマネジメント等の業務を担っており、件数に応じて介護報酬があるため、各いきいきサポートセンターが規定の専門職員のほかに介護支援専門員等を配置して業務にあたっています。
ご意見	介護保険制度全般と在宅サービス以外に相談内容内訳にも表われていますが、地域において、独居や家族の支援を受けられない認知症の方が増えて、包括支援センターの支援なしには対応できず、日常的に大変助かっています。	板原委員	/	/

議題(3) 指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントの業務委託可能な居宅介護支援事業所の承認【資料3】

項目	質問等	質問者	担当	回答
	質問なし			

議題(4) 地域包括ケア「見える化」システムを活用した介護保険事業の地域分析【資料4】

項目	質問等	質問者	担当	回答
12	考察にも書いていましたが、軽度認定率が、県内で最も高い理由、考えられることは何なのか、教えてください。	横倉委員	介護保険課	軽度認定率が高い要因としては、多くの地域包括支援センターが市民センター内に設置されているなど、相談しやすい場所にあることや、軽度の介護状態から介護認定を薦める病院が多いことが考えられます。
13	考察で、軽度認定率が高い要因は、今後分析し云々～とされていますが、重度認定率が県内及び全国平均からも大幅に低いことから、今後分析ではなく、R4から対応可能な対策は検討されないのでしょうか。	清水委員	介護保険課	今後も「見える化」システム等により傾向を把握及び分析し、高齢者の保健事業の所管課に情報提供を行っていきます。
ご意見	サービス提供の軽度認定者は、サービスがあることを知り得る環境にあった一方、認知症等でサービスを拒否又は知らず、近隣住民の負担になっている様な、数字上見えない方々が増えていることを実感しています。	板原委員		

議題(5) 令和4年度地域密着型サービス事業所の整備・運営事業者の募集【資料5】

項目	質問等	質問者	担当	回答
14	看護小規模多機能居宅介護が3事業所整備となっています。それだけ地域におけるニーズが高いということでしょうか？	猪狩委員	介護保険課	看護小規模多機能型居宅介護等の医療系サービスについては、今後、増加が見込まれる中重度の要介護者の在宅生活を包括的に支えていくためにも必要と考えており、未整備圏域の解消を図ることを優先に整備を進めています。
ご意見	各々、募集の範囲が広域ですので、既存施設と重複しない様にと 思います。	中嶋委員		

議題(6) いきいき長寿プラン2026に向けた介護サービス利用状況調査(案)【資料6】

項目	質問等	質問者	担当	回答
15	利用状況調査の質問項目について、これまで行われた利用状況調査の質問項目と同一なのが、今回、新たな質問項目を設けたのか、教えてください。	横倉委員	介護保険課	前回の調査と同一の質問項目になっています。
16	資料6-2の5(1)、緊急時及び移動時に関する手助けが求められているについて、具体的にどのような解決策がありますか？あれば、周知の方法は？	板原委員	高齢者支援課・介護保険課	災害時における体制整備や移送支援について、解決すべき課題と受け止めており、インフォーマル(民間)との連携を含めた検討をしています。また、介護保険サービスでは、地域密着型の訪問介護サービスとして、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が24時間体制での緊急時対応も行っており、これら制度等の周知についても、HPやガイドブック等を通じて普及に努めています。
17	老々介護の実態を把握される意味でも、主な介護者(配偶者)の身体機能状況を問う必要性は、如何でしょうか。	清水委員	介護保険課	ご意見を参考としまして、質問項目を検討します。

18	資料6-2の5(6)について 満足度調査で、「満足+まあ満足」が、前回54.1%に対して、今回83.8%です。この大幅な上昇の項目別の分析はどのようなものでしょうか。今後に役立てられませんか。	清水委員	高齢者支援課	いきいきサポートセンターの利用に対する満足度が前回調査にから上昇していることについては、高齢者人口に合わせ市内13地区に19か所設置し、高齢者や地域のみなさんの様々な相談に丁寧に対応してきた成果と思われます。この結果をいきいきサポートセンター職員にも伝え、引き続き、地域の頼りになる相談機関として担っている役割を再確認していきたいと思ひます。
ご意見	日常の支援については、包括支援センターとCSWの設置により、地域での安心感は大変高まりました。	板原委員		
ご意見	(4)今後利用したいサービスが福祉用具貸与とは意外だった。	中嶋委員		
ご意見	資料6-2 報告書を見ると、市民側の実際の現状がみえていて、大事な調査だと感じた。	田中委員		
ご意見	感染症に罹患し在宅療養となった場合、家族等の支援者が確保できない際、求める支援内容(食料や消耗品の確保等)の優先度や相談先を把握していきたいと思ひます。	中村委員		

議題(7) 地域密着型サービス事業者等の指定状況(非公開)【資料7】

項目	質問等	質問者	担当	回答
----	-----	-----	----	----